

「 広島ボランティアに行っただこと 」

滋賀県 東近江市立能登川中学校 3年 矢川 千寛

二〇一八年七月五日から八日にかけて、広島県中部では梅雨前線等の影響に伴い集中豪雨が発生しました。その影響で広島市などでは豪雨による土砂災害が発生しました。私たち家族はそのニュースを見て、現地のボランティアに参加することにしました。

私は夏休みに広島に行き、土砂災害の被害に遭った方の家に行きました。現地はひざの高さくらいまで、土砂が流れてきている状態でした。私は、土砂災害の被害に直接遭ったことがなく見たことがなかったので、その光景を見たときは、とても衝撃を受けました。

私は家に流れ込んできた土砂をスコップで土のう袋に入れ、その袋を運ぶというボランティアをしました。土砂は匂いがとてもひどいうえに、水分を含んでいたのもとても重く土のう袋に入れるのが大変でした。お年寄りの方の家に土砂が流れてきて、片付けようとしても土砂が重いので片付けることが大変です。普段通りの生活に戻るには、とても時間がかかりそうだと感じました。この経験から災害が起こった時には、助け合うことが大切だと思いました。他のボランティアの方から声をかけてもらったり、褒めてもらい嬉しい気持ちになりました。ボランティアに行くと被災された方が喜んでくださったので、何か手伝えることがあればまた来て力になりたいと思いました。

私はボランティアに参加して、改めて土砂災害の恐ろしさを知りました。ニュースなどで誰もが知っているけれど、想像していたものよりもずっとひどく恐ろしいものです。

土砂災害で尊い命を守るために、一人ひとりが日頃から、備えておくことが大切です。そのために、備えられることがたくさんあります。

一つ目は、自分たちが被害を受けそうになった時には、すぐにその場から逃げられるように防災バックを用意しておくことです。もし災害がひどい場合、家に帰れず避難場所で生活をしなければいけません。だから一週間分の食料、飲料、日用品などがあるか確認することです。また、食料の消費期限が切れていないかも定期的に確認しないといけません。

二つ目は、雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意することです。土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに、住民の自主避難の参考になるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。市町村が警戒レベル四避難指示を発令すると災害の切迫度が高まっていることを表しています。テレビやラジオの気象情報で確認し、的確に避難する判断をすることです。

三つ目は、避難場所や避難の方法を家族で話し合うことです。ハザードマップで避難場所はどこか、近くの危険な場所はどこか事前に確認しておくことです。

四つ目は、学校や地域で行われる避難訓練をしっかりと行うことです。以前、テレビで被害にあわれた方が

「本当に災害が起こることを想定して避難訓練を行っていたので、冷静に逃げることができました。」

と言っておられたのを思い出しました。改めて避難訓練は命を守るために大切なことだと思いました。このように土砂災害から自分の命を守るために、備えられることはたくさんあります。

私は広島のボランティアに参加してたくさんを知り、どれだけ土砂災害が恐ろしいものなのか分かりました。

土砂災害はいつ、どこで、誰の身に起こるのか分からないので土砂災害が起こっても、自分自身が大きな被害に遭わないために自分にできることを考え、命を守ることを最優先にしていきたいと思います。また、当たり前の日常に感謝し、いざという時のために日頃から災害と向き合っていきたいです。